

## 水稲【6月中旬～7月中旬の管理】

### ○中干しの実施（※漏水の恐れがある場合は、実施後、水の確保が可能か確認して下さい）

- ・1株のうち、葉が3枚以上ついた茎が16～18本程度で実施します。中干しの程度は、田面にヒビ割れが入るまで干し、7日程度行います。

### ○残りヒエ対策

除草剤名	使用時期	使用量 (10aあたり)	使用方法	使用回数
クリンチャー 1キロ粒剤	移植後 7日～ノビエ4葉期 収穫30日前まで	1kg	水を十分にためて散布。 ヒエ専用剤	2回 以内
	移植後25日～ノビエ5葉期 収穫30日前まで	1.5kg		
クリンチャーEW	移植後20日～ノビエ6葉期 収穫30日前まで	薬量100ml 水量25～100ℓ	湛水散布又は落水散布。 ヒエ専用剤	
クリンチャーバス ME液剤	移植後15日～ノビエ5葉期 収穫50日前まで	薬量1000ml 水量70～100ℓ	落水状態（足跡に水が残っている程度）で散布。広葉雑草にも効果あり。	

### ○葉いもち病防除

発生は、気象条件で大きく左右され、中でも降雨日数が多く湿度が高く日照時間が短い日が連続する場合に多く発生します。今後の気候に注意して予防に努めましょう。また、植え残しの苗は伝染源になりやすいので処分して下さい。

### ○紋枯及び稲こうじ病予防

高温多湿（30℃～32℃）の条件で発生しやすくなり、幼穂形成期ごろから病気の勢いがよくなるので、その頃が重要な防除時期にあたります。特に昨年発生した水田では発生する可能性が高いので、予防を徹底して下さい。

※JA育苗センター使用のルーチンエキスパート箱粒剤には紋枯れ病の予防剤が含まれております。

対象病害	農薬名	使用時期	使用量 (10aあたり)
いもち病予防	コラトップ粒剤5	6月中旬 葉いもちには初発10日前～初発時 穂いもちには出穂30日前～5日前まで	3～4kg
紋枯病予防	バリダシン粉剤DL	出穂2～3週間前 収穫14日前まで	3～4kg
紋枯病 稲こうじ病予防	モンガリット粒剤	出穂2～3週間前 収穫45日前まで	3～4kg

### ○珪酸加里・穂肥

珪酸加里を6月中下旬（出穂45日前）までに10a当り20kg施用し、稲体をガッチリとさせ登熟の向上を図りましょう。穂肥については粒数の確保・粒重量増加のため以下の例に基づき、田んぼの状況にあわせて行ないましょう。

※元肥に重焼燐ミックス・ホスピタ・こめ太郎使用の場合は不要です

注：穂肥の多施用は倒伏の原因となります。特にコシヒカリについては葉色を見て施用量を減らすなどの調節をして下さい。

品 種	施肥時期（幼穂長）		追肥用肥料NKC-12号 (10aあたり)
ハナエチゼン	1回目	出穂25日前（1～2mm）	15kg
	2回目	出穂14日前	10kg
コシヒカリ	1回目	出穂20日前（5～8mm）	10kg
	2回目	出穂10日前	8kg

・こめ次郎を使用する場合は、出穂25日前に30kg/10aを1回施用。

・セラコートRワン・スーパー島コシー発・楽一を使用の場合追肥は不要です。

・きぬむすめでは穂肥までに葉色が落ちた場合（7月上旬～中旬）、NKC-12を5kg/10a程度つなぎ肥を行なって下さい。